チャレンジドグループ研究報告書

「健常児と障害児の放課後支援の実態」

＜動機・研究概要＞

私たちのグループは、ＮＰＯ法人チャレンジドで夏休みの１週間、活動をさせていただきました。チャレンジドでは、日中一時支援に参加させていただき、保育園児から高校生までの障碍をもつ子どもたちと関わらせてもらいました。活動終了後、チャレンジドとの反省会で、美浜町や、南知多町で障碍をもつ子どもたちが過ごす場所が、足りていないという現状を知りました。そこで、私たちは、障碍をもつ子どもたちが放課後に家庭以外で過ごす場所は、いったいどれくらいあるのかということを調べ研究しようと考えました。それだけでなく、健常児が放課後に家庭以外で過ごす場所もいったいどれくらいあるのかということと比較してみようと考えました。調査方法は、インターネットを主にあとは、教科書を用いました。調査規模は、愛知県全体、知多半島の市町と２つの段階に分けました。さらに、チャレンジドを利用している子どもたちの保護者の方にも協力していただき、アンケートを実施し、利用者の生の声も貴重な情報として活用しました。

＜健常児の放課後支援の実態＞

◆　放課後児童クラブについて

健常児の放課後支援の実態について述べたいと思います。健常児の放課後支援の代表的なものとして挙げられるのが、放課後児童クラブです。また、学童保育とも言います。放課後児童クラブは、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校低学年（おおむね１０歳未満）の児童に対し、授業終了後や長期休業に、小学校の余裕教室や児童館等を利用して適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図るというものです。対象は、先程も述べたように、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校１年生～３年生の児童が原則ですが、特別支援学校の小学部の児童や児童及び小学校４年生以上の児童も加えることもできます。活動内容としては、対象児童の健康管理や情緒の安定確保、遊びの活動へ意欲と態度の形成、遊びを通しての自主性・社会性・創造性を培うこと、家庭や地域での遊びの環境づくりへの支援などが挙げられます。

◆　放課後児童クラブの件数

放課後児童クラブの調査規模での件数について述べたいと思います。今回調べた放課後児童クラブの件数は、児童福祉法に基づいて運営されているものに限定されています。放課後児童クラブは、愛知県全体には、８３３件あることが調べてわかりました。そこから、範囲を知多半島に狭めてみると、６６件しかありませんでした。内訳は、半田市１０件、常滑市５件、東海市１５件、大府市１１件、知多市１４件、阿久比町３件、東浦町７件、武豊町１件、美浜町０件、南知多町０件です。美浜町と南知多町には、１件もないことがわかりました。隣の武豊町にも、１件しかないという現状でした。

＜障碍児の児童デイサービスの実態＞

◆　児童デイサービスについて

障碍児の児童デイサービスの実態について述べたいと思います。障碍児の児童デイサービスは、障碍児につき、知的障害児施設、肢体不自由児施設、その他に通わせ、日常における基本的な動作の指導及び集団生活への適応訓練を行います。対象は、就学前の児童を原則とするが、小学生から１８歳未満の児童も利用することができます。活動内容は、場所によりさまざまです。

◆　児童デイサービスの件数

児童デイサービスの調査規模での件数を述べたいと思います。今回調べた児童デイサービスの件数は、障害者自立支援法の基準に基づいて運営されているものに限ります。児童デイサービスの件数は、愛知県全体で、１３４件あることが調べてわかりました。そこから、知多半島に規模を狭めてみると、５件しかありませんでした。内訳は、半田市２件、大府市２件、知多市１件、常滑市・東海市・阿久比町・東浦町・武豊町・美浜町・南知多町は、いずれも０件でした。美浜町と南知多町は、健常児も障碍児も１件もないということがわかりました。

◆　放課後児童クラブと児童デイサービス

放課後児童クラブと児童デイサービスでは、対象年齢が違うため、放課後児童クラブに合わせて、学齢児を対象とした児童デイサービスに絞ると、知多半島の学齢児を対象とした児童デイサービスは、１件だけでした。この現状に、驚きました。

◆　知多半島の児童デイサービス

知多半島の児童デイサービスについて紹介したいと思います。１つ目は、唯一学齢児を対象とした、大府市発達支援センター「おひさま」です。対象は、障害者自立支援法による支給決定を受けた小学校１年生から６年生です。２つ目は、デイサービス初音です。対象は、就学前の脳性麻痺・先天的な疾患による運動発達の遅れや運動障碍のある子、就学後の脳性麻痺・先天的な疾患による運動障碍のある子です、３つ目は、知多市「やまもも園」です。対象は、満２歳から就学前です。４つ目は、「わたぼうし」です。対象は、０歳から１２歳程度です。５つ目は、社会福祉法人むそう児童デイサービス「ぴゅん」です。対象は、むそうに会員登録した学童期の子ども、０歳から１８歳程度です。

＜放課後児童クラブと児童デイサービスの比較＞

健常児の放課後児童クラブの実態と障碍児の児童デイサービスの件数を比較してみました。まず初めに思うことが、健常児の放課後支援クラブの知多半島の全体件数に比べ、障碍児の児童デイサービスの全体件数が圧倒的に少ないということです。そして、美浜町と南知多町には、どちらも１件もないということもわかります。こういったことから、美浜

町と南知多町の障碍をもつ子どもたちやその保護者の方にとって、障害者自立支援法の基準には満たしていないが、日中一時支援を行っているチャレンジドの存在は大きく、重要であることがわかると思います。

＜チャレンジドの利用者の声～アンケート結果～＞

私たちグループは､チャレンジドを利用している障碍をもつ子どもたちの保護者の方に、いくつかアンケートをとりました。初めに、チャレンジドは保護者の方にとって、どのような場所であるか、という問いに､「家族の次に関わりを持つ・第二の家族のような場所・安心して子どもを任せられる場所・親と離れて遊ぶことが出来る・たくさんの人や友だちと遊ぶことが出来る・子どもを預けている間は、ほかの用事を済ませることができ、息抜きも出来る・保護者同士のつながり」などといった回答をいただきました。次に、チャレンジドはお子さんにとって、どのような場所だと思いますか、という問いに､「楽しい時間を過ごせる・いろんな人に出会える・家族以上に発散し、また楽しめ、ゆったり出来る・家族以外の人たちと関われる場所・学校のような集団の中で決められたカリキュラムや家の中での家族だけでパターン化した生活とも違い、個別対応されつつ、仲間もいて、いろんな事も体験できる」などといった回答をいただきました。最後に、住んでいる地域にあるといいと思う支援や援助はありますか、という問いには､「近くに宿泊できる（ショートステイ）施設や緊急対応（２４時間）できる場所や人（送迎も含む)・２４時間体制で子どもを見守ってくれる施設」などといった回答をいただきました。ショートステイが必要ということに関して、利用者さんの中には､「現在、ほかの町に登録をしているが、予約が２カ月前と早く、利用したいときに予約がいっぱいでとれない。利用するにも遠いので送迎にも時間がかかる。本当に、家族に緊急なことがあった場合に不安｡」という状況の方もいらっしゃいました。さらには､「親の死後、独りぼっちになる子どもの将来が心配！」という声もありました。保護者のみなさんにとって、やはりチャレンジドの存在は、とても大きく、安心できるものでした。子どもにとっても、とても良い影響を与えてくれる存在であることもわかりました。

＜チャレンジドの現状＞

チャレンジドの現状を、日中一時支援を中心に、ここで述べたいと思います。チャレンジドで行っている日中一時支援は、１１月までは、美浜町に住む障碍をもつ子どもに限られていました。本当は、南知多町に住む障碍をもつ保護者の方からも､「利用したい」という声はあったのですが、送迎などの問題で受け入れることが出来ませんでした。しかし、８人乗りの車を購入し、受け入れが出来なかった原因の１つである、送迎の問題も解決されました。そして、１２月から南知多町に住む障碍をもつ子どもたちも、日中一時支援に参加することが出来るようになりました。その他にも、さまざまな取り組みを新たに考えているそうです。

＜まとめ・考察＞

今回、「健常児と障碍児の放課後支援の実態」を調べてみて、疑問に思ったことがありました。それは、健常児の放課後支援も手厚く整備されていないというのに、障碍児の放課後支援は手厚く行うことが出来るのか、ということです。特に、美浜町はどちらもないという現状であるのに、障碍児の放課後支援へのニーズはとても多く、中には、２４時間体制の緊急対応が可能な施設も必要というニーズもありました。このようなニーズは、今表面上に出ただけで、障碍をもつ保護者の方の心の中には、かなり以前からあったと考えられます。そのニーズに応えるには、今現在チャレンジドで行われている日中一時支援だけでは、足りないと考えます。足りないままだと、障碍をもつ子どもたちは、家しか過ごす場所がなくなり、社会とも疎遠になってしまうと思います。保護者の方にとっても、緊急な時に子どもを見守って欲しい、息抜きをしたい、という時に応えてくれる場所がなかったら、意味がないと思います。そういったニーズに応えることが出来ないとなれば、家族で抱え込んでしまい、さらなる困難な状態に陥ってしまうと思います。こういった状況にも対応できるように、やはりもっと数多くの障碍児の支援や援助を提供するサービスが必要であると考えます。

今回の研究で、さまざまなことを知り、考えることが出来ました。そして、言えることは、健常児の放課後支援も大切ですが、それ以上に障碍をもつ子どもの放課後支援や援助がもっと必要であるということです。そういった支援や援助ができることで、家族も安心して子どもを任せることができ、障碍をもった子どもたちにとっても、いろんな人と交流もでき、家庭では経験できないことを数多く経験し成長できるのではないかと考えます。

＜これから＞

今回のアンケートでは、アンケートの準備不足や期限が短いこともあって、少数にしか実施できませんでした。規模も美浜町だけでなく南知多町にまで広げることで、もっと多くの利用者の声を知ることができ、いろいろなアイディアも出てきたのではないかと思いました。これで終わるのではなく、継続的にチャレンジドと関わり続け、その後の実態を知り、さらには何か協力できないかと思います。